

# 那須水害



1 2 余笹川に架かる寺子橋。一部が流され通行不能に。水位の上昇により橋の上には流木が。  
 3 救助された人の様子。栃木県、茨城県、群馬県の防災ヘリコプターが活躍した。 4 避難所(寺子小学校)を慰問し、被災者を励ます小淵総理大臣(当時)。政府はその後、激甚災害と認定し復旧事業への支援を行った。 5 床上浸水の被害を受けた家屋。壁についた跡が当時の水位を物語る。 6 災害ごみを撤去する地域住民やボランティアの人たち。多数の人たちの協力で復旧に向け取り組んだ。

## 当時の主な状況

### 那須水害経過、主な被害

- 8月27日 旧黒磯市・旧塩原町災害対策本部設置 余笹川決壊
- 8月30日 旧西那須野町災害対策本部設置
- 8月27日～30日 複数の地区に避難勧告、避難所開設

### 避難所開設状況と避難者数 ※それぞれ最大時。

避難所数	20か所
避難者数	1,971人

### 人的被害

死者	1人
----	----

### 住家被害

全壊	10棟
床上浸水	113棟
床下浸水	792棟

### ボランティアの活動

8月30日～9月7日の間、ボランティア活動に2,000人超が参加。被災者住居の片付けや救援物資の配布、避難所支援などの活動に従事し、災害復旧の大きな力となった。

### 消防団の活動

8月27日～9月15日の間、延べ9,374人の消防団員が災害対応。多数の被災者を救助したほか、避難誘導、ポンプ車による排水作業、土のう積みなどに尽力した。

### 自衛隊の活動

8月27日～9月3日の間、644人の陸上自衛官が派遣。旧黒磯市において避難誘導やヘリなどでの捜索・救助、流木除去作業や氾濫河川の補修作業など、多方面での救援活動を行った。



先月、西日本各地に甚大な被害を与えた、西日本豪雨など、私たちの生活を脅かす災害はいつどこで起きるか分からない。  
 本市においても、平成10年8月26日から31日にかけて、記録的な大雨に見舞われた。この豪雨により多数の家屋が流出、倒壊、床上浸水被害、余笹川と熊川は決壊するなどの甚大な被害を受けた。  
 この未曾有の大災害、那須水害から今年で節目の20年。当時の被害状況などを振り返る。

### 倒壊する民家、流される橋 那須水害がもたらした被害

当時、那須地域を襲った大雨は、27日の日雨量で608ミリ、26日から31日までの総雨量は1254ミリ、年間雨量の7割が6日間に降るとてもない集中豪雨でした。

本市では、特に黒磯地区での被害が大きく、那珂川や蛇尾川が危険水域に達し、余笹川と熊川が決壊するなど、最大約2千人もの人たちが避難所生活を強いられました。

この、尊い命を奪い、家屋や橋梁、道路、家畜や農地にも大きな被害を与えた私たちがこれまで経験したことのない記録的な大災害は、テレビの中の出来事ではなく、皆さんの住むこの地で、実際に起きたことなのです。

### 復旧の裏側には

壊滅的な被害を受けた被災地の復旧には、多くの人たちの支援がありました。

栃木県はもとより、茨城県、群馬県からの防災ヘリの出動や自衛隊の派遣。消防団の不眠不休で昼夜にわたる献身的な水防活動。後片付けや清掃作業には、高校生をはじめとした多くのボランティアの皆さんの応援。また、災害発生と同時に全国各地からの心温まるお見舞いと多くの救援物資などが集まりました。

当時この大災害をどう乗り越え、今、私たちは何をしなければならぬのか、改めて考えていきましょう。

### 那須水害20周年シンポジウム

那須水害を振り返る講演やパネルディスカッションを行います。この機会に、水害のおそろしさと川の多様性を再認識して、地域と河川の関わり方について考えてみませんか。

- ▶とき 8月25日(土) 午後1時～3時30分
- ▶ところ 那須町文化センター (那須町大字寺子乙2567-10)
- ▶参加費 無料(申込不要)
- ▶問い合わせ 余笹川流域連携ネットワーク事務局 (福田) ☎090-8726-8318